

ベーリング・プロジェクトだけが戦争無き世界をつくる

パク・ソンヨル UPF 釜山広域市長 (世界平和道路財団諮問委員)

最近のロシアによるウクライナ侵攻の事態にあたり、文鮮明・韓鶴子総裁が17年前、米国で天宙平和連合 (UPF) 創設時に宣布された「ベーリング・プロジェクト」が思い起された。その時、もし米国とロシアが主体的にこの内容を受け止めてベーリング・プロジェクトを推進していたならば、今のウクライナの事態は予防できたと思われる。なぜならば、プーチン、ロシア大統領の言行を分析すると、単にウクライナ一国を侵攻したということではなく、西側体制全体に対する挑戦であり、挑発であると言えるからだ。昨今のウクライナ事態は「冷戦終息以後30年に渡る西側のロシアに対する反感と無視」が一因だと見ることができる。ウクライナを犠牲にした西側体制に対する攻撃、そしてロシアの存在感を表したものと分析することができる。

米露の大陸が連結されればウクライナ戦争は無い

かつて総裁御夫妻は旧ソ連の復活 (ロシア) がいつでも現れ得ることを懸念して、これに備えるにあたり、全世界の恒久的平和構築を目指して2005年9月12日、米国ニューヨークのリンカーンセンターでUPF創設に合わせて以下のように「ベーリング・プロジェクト」を宣布した。

「世界指導者の皆様、私は本日、貴い場をお借りして今一度、人類の平和世界創設のために、そして神様の祖国と本郷の設定のために、実に摂理的で革命的なプロジェクトを宣布しようと思います。歴史的にサタンによって東と西を、南と北を隔てて、地理的には北米大陸とロシア大陸を隔てたベーリング海峡に橋梁を建設するか、海底トンネルを掘るというものです。

そして、アフリカの喜望峯からチリのサンティアゴまで、英国のロンドンから米国のニューヨークまで、自動車の世界中を駆け巡る世界超高速道路を連結する『世界平和の王の橋とトンネル (WORLD PEACE KING & QUEEN BRIDGE and TUNNEL)』を建設して世界を一日生活圈にしようというのです。

これ以上、分断と分裂は許容できないということは天の警告です。全世界を一つの生活圈に束ね、サタンがつくった人種、文化、宗教、国家の壁を崩して、神様がそのように願ってこられた平和世界をこの地球村に創建しようというのです。

米国とロシアが一つとなり、ヨーロッパ大陸と中国、インド、日本、ブラジルなど世界のすべての国家、そして全ての宗教が一つとなり、共に力を合わせて、この歴史的なプロジェクトを成功させなければなりません。この事業の成功こそ、人類にとってもはや戦争と分断が必要ない平和王国を創建するにおいて決定的な役割を果たすようになるでしょう。」

当代最高の地政学専門家であるパラグ・カナ、シンガポール国立大学教授は『接続性の地政学 (GRAPHY)』で「連結は安定的であり平和に寄与する」と言及し、ベーリング・プロジェクトの必要性を裏付けしてくれた。それによると世界の危険要素は連結性が解消するようになるという。連結は運命であり、国家は争わない。インフラは領土より価値がある。国境は摩擦の象徴であるため、基盤施設を通して国境を越えなければならないということだ。

ベーリング・プロジェクトは当面は経済性が劣ると考えられるが、逆の発想でこの事業が成されれば、ロシアと米国の間の平和の達成だけでなく、世紀のニューディール政策となるであろう。即ち、低迷する世界経済を活性化させながら世界経済の好循環

環構造へ発展させ得ると期待される。

環太平洋の要衝、韓半島が世界平和を主導

このプロジェクトは韓半島の統一にもつながるものだ。韓半島の統一は一方向的に周辺国の支援と協力を要請する過去の消極的方式から脱しなければならない。これからは周辺国の利益が韓半島統一と直接関連するように制度的方案を用意し、南北統一に協力するほかない状況に反転させなければならない。ベーリング・プロジェクトはこのような構想を現実化させる具体的事業だ。

韓国・北朝鮮をはじめ米国とロシア、中国、日本など域内の全ての国家が共同のプロジェクトとして推進すれば、具体的に北朝鮮を支援することができるようになるので、南北経済協力の外縁を拡大させる結果ももたらすようになる。

ユーラシア大陸と太平洋を併せ持つ韓半島は米国とロシア、中国、日本の四大国家が戦略的に放棄することができない地政・地経学的位置を占めている。このため韓半島は昔から、ある一国家が覇権的地位をもって影響力を行使することができない強大国の角逐場となってきた。

ベーリング・プロジェクトは韓半島が強大国の利害実現のための要衝地ではなく、世界平和のための要衝地だという摂理史の意味を新たに付与している。また受動的な要衝地という韓半島の地政学的特性を変化させ、韓半島が環太平洋と北東アジアの要衝地という地理的利点を能動的に活用することができる環境を造成するだろう。

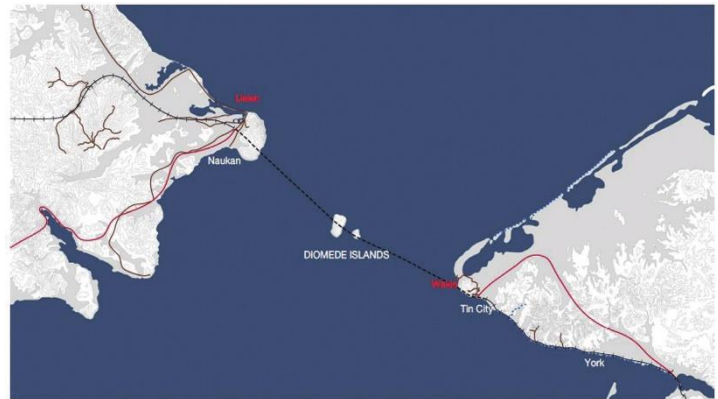
冷戦後、国際政治の深層の動因は経済的利益を図ることに転換され、次第に地域間協力を拡散させている。特に世界化時代の到来は世界を一つの空間、共同運命体へと変えている。脱冷戦と世界化という国際政治的变化は、ベーリング・プロジェクトを成功へと導く誘因をもたらす。韓半島は韓日海底トンネルを通して日本から中国、ロシア、モンゴルと連結され、シベリア鉄道を経て、中央アジア、中東、ヨーロッパなどユーラシアの中央と西側に連結され、ベーリング海峡海底トンネルを通して北米と南米まで伸びていく。

結果的にユーラシア大陸と北米大陸全体に疎通の範囲を拡張することで、大陸経済と海洋経済を融合して超国家経済圏を形成するようになる。ソウルを中心として飛行 3 時間以内の範囲に人口 100 万人以上の都市が 43 ヶ所もあるという事実を考慮すると、韓国の地経学的利点を極大化させ韓半島が北東アジアおよび環太平洋の物流中心地となる可能性はさらに高くなる。さらにベーリング・プロジェクトは南北統一を達成するための最適な環境を造成する魅力的な統一推進戦略であり、統一以後、軟着陸過程を助け、統一韓半島が世界平和のために打ち出す未来戦略まで一気に繋がり得る。

特に米国とロシアを直接、連結することで真の和解を引き出すだけでなく、冷戦の最後の象徴である分断された韓国・北朝鮮の統一を成す上で核心的な寄与をするため、韓半島統一を世界平和にまで連結させる大きな意味を含んでいる。

韓国・北朝鮮の統一にも決定的な寄与を果たす

世界の列強の利害関係が衝突する接点にある韓半島が今や強大国の葛藤と衝突を防ぎ、世界の繁栄と平和のための協力を引き出す重要な役割を担う時を迎えた。韓半島がベーリング・プロジェクトという媒介体によって強大国との関係をスムーズに維持しながら世界平和を促進させる役割を果たす時がまさに今だ。



ベーリング海峡兩岸連結都市設計概念図